

令和7年度 事業報告書

社会福祉法人 まほろば福祉会

目 次

○ 法 人 本 部	1
○ ワークステーションやじろバえ	4
○ 障 害 者 支 援 施 設 翼	9
○ さ く ら さ く ら	13
○ ひ ら り ・ 天 領 の 杜	18
○ 相 談 サ ポ ー ト ま ほ ろ ば	22
○ 地 域 支 援 局	24

令和 7 年度 法人本部事業報告書

I 事業の概要

- 1 第 17 期役員任期満了により 6 月に役員改選を行った。
役員は、常政徹理事、山下幸司理事が退任し、新たに齋藤義見理事、横山友祐理事が就任した。監事は、大野昌亮監事が就任をした。
- 2 10 月より特定技能制度を活用した外国人労働者 2 名を雇用し、BeFine で共同生活を送りながら、障害者支援施設翼での就労を開始した。
- 3 「障害福祉人材確保・職場環境改善等事業」「介護人材確保・職場環境改善等事業」の補助金を活用して、10 月に職員へ一時金を支給した。
- 4 法人運営のために大きく貢献をした職員（各拠点 1 名）に対して、7 月と 1 月に報奨金を支給した。
- 5 理事会 4 回、評議員会 3 回を開催した。

II 事業の状況

1 事業進捗状況

(1) ほっとすてーしょん翼駐車場整備工事

令和 7 年 6 月に着工し、2 ヶ月半かけて整備工事を実施した。これにより、災害時に安全かつ迅速に避難誘導をすることが可能となり、安心・安全な生活環境を提供することができるようになった。

(2) 第 3 期中長期経営計画の策定

法人の次世代を担う職員により、第 2 期中長期経営計画の取り組みを検証し、第 3 期中長期経営計画（令和 8 年度から令和 12 年度の 5 か年）を策定した。

(3) 諸規程の改定

最低賃金の改定やベースアップ手当の定額支給等のため、給与規程の改定を随時行った。また、昨今の社会情勢を踏まえ、役員等報酬規程や慶弔規程の改定を行い、それに伴い定款の一部変更を行った。

(4) 事業所間交流イベントの開催

5 月に法人内事業所の利用者やそのご家族、職員が一同に集う『事業所間交流イベント』を企画し、あいにくの天候だったにもかかわらず総数 341 名にご参加いただき、実施することができた。利用者や職員にとっても記憶に残るイベントとなった。

(5) 障がい者スポーツ普及推進への取り組み

地域支援局での障がい者スポーツの取り組みのひとつとして、5 月に開催された県障がい者スポーツ大会に 8 名の方が出場し、当日は多くの出場者が輝かしい成績を収めら

れた。また、宮崎県障がい者スポーツ協会の依頼を受け、県内外で開催されるスポーツ大会に福祉バスや福祉車両の貸し出しと職員の派遣を行い、障がい者スポーツの普及推進のための取り組みを継続して実施した。

(6) 人材確保とキャリアパス制度の導入

年間を通して、11 名を正職員として新規採用をした。また、3 名を契約職員から正職員へ、1 名を非常勤職員から正職員へ登用した。

研修については、新任職員研修と全体研修（交通安全運転研修）、先進地視察研修を実施した。また、障害者支援施設翼が加盟している全国身体障害者施設協議会や九州障害者支援施設協議会が主催する研修へ各拠点からも参加をした。スキルの向上や自己成長の機会となったことはもちろん事業所を超えて職員の交流を図ることができた。

Ⅲ 寄附金関係

- 松下 琢哉 様
- 宮崎第一信用金庫
- 鬼島 善郎 様
- 藤嶋 学 様

Ⅳ 職員研修関係

- 新任職員研修
- 法人全体研修（交通安全運転研修）
- 先進地視察研修（宮城県 社会福祉法人ありのまま舎）
- 国際福祉機器展
- 人事・労務管理研修（本部）

Ⅴ 行事関係

- 事業所間交流イベント
- 永年勤続表彰（6 名）
- 永年利用者表彰（27 名）
- 報奨金（9 名）
- 福利厚生制度（職員の子どもの全国大会出場支援金）

	チーム名	出場大会	成績
1	生目柔道	全国少年柔道大会	ベスト 8
2	宮崎南高等学校	全国高等学校総合文化祭 香川大会	
3	極真宮崎 山下道場	オープントーナメント国際グランドチャンピオン決定戦・少年少女空手道選手権大会	
4	日章学園中学校	全国中学校軟式野球大会	ベスト 8
5	生目柔道	マルちゃん杯 全日本少年柔道大会	ベスト 8
6	宮崎南高等学校	全国高等学校なぎなた選抜大会	

VI その他

1 UMK こども未来応援プロジェクト「UMK スポーツフェスタ」への協賛

法人創立 35 周年を迎えるにあたり、明るく希望に満ちた未来を担う子どもたちへの支援及び社会貢献活動の一環として、UMK スポーツフェスタへサポート企業として協賛をする。

VII 決算状況（別添決算書参照）

令和7年度 やじろべえ事業報告書

I 事業の概要

- 「障がいのある方の『働く・くらす』をサポートする」体制を構築しながら、バランスの取れた社会づくりを目指してきた。ワークステーションやじろべえ、ヘルパーステーションやじろべえ、Yumeハウスやじろべえの三拠点間の連携も順調に継続できた。
- 就労継続支援B型事業の新規利用者は5名であったが、そのうち2名がやじろべえの作業に適合せず退所となった。
- 就労支援においては、工賃アップを最大の目標に掲げ、利用者・職員が一体となって取り組んだ。しかし、物価高騰の影響を受け、就労支援事業の売上は前年度と比較して約970万円の減収となった。その結果、平均工賃は前年度比約1,447円減の30,080円となった。
- 設備整備関係では、安心・安全な送迎サービスの充実を図るため、送迎車両2台をリース契約により入れ替えた。新車両は座席にゆとりがあり、利用者が快適に通所できる環境が整った。
また、法人内事業所として初の取り組みとなるエアコン7台のリース契約を締結した。リース導入により、固定資産管理の簡素化と保守点検の省力化が実現し、修繕を含む管理コストおよび担当者の事務負担の削減につながった。
- BCP（業務継続計画）関連や虐待防止関連では、運営指導に基づき、年間計画に沿った各委員会の活動を通じて、適正な研修・訓練に継続的に取り組むことができた。

II 事業の状況

1 就労継続支援B型事業

(1) 事業実績

		令和7年度		令和6年度	令和5年度
		目標値	実績値	実績値	実績値
利用者定員		40人	40人	40人	40人
登録利用者数		48人	43人	45人	45人
開所日数		265日	265日	263日	265日
一日平均利用者数		40人	32.5人	34.5人	34.0人
利用者延べ人数		10,600人	8,637人	9,074人	9,001人
介護給付費収入 (利用者負担金含む)		81,600,000円	80,794,860円	80,019,385円	73,744,750円
工賃支給総額		13,500,000円	11,767,355円	13,089,915円	11,532,824円
就労支援 収入	印刷	28,000,000円	24,558,985円	34,938,248円	28,483,315円
	請負	4,500,000円	4,494,625円	3,878,497円	4,326,659円
平均工賃月額		29,000円	30,080円	31,527円	28,295円

(2) 事業成果と課題

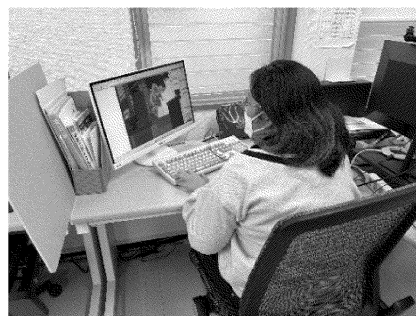
- ① 給付費収入は前年度から微増であった。しかし、祝日営業を 10 日、土曜営業を 13 日実施したが、一日平均利用者数および利用者延べ人数とも目標値を大きく下回る結果となった。
- ② 昨年度と比較して、長期入院や病状悪化による就労不可を理由とした退所者が続いたが、新規利用者との入れ替わりもあり、登録利用者数は 43 名となった。支援学校の職場体験では、2 年生 1 名・3 年生 5 名の計 6 名を受け入れた。そのうち 1 名は、職場体験を経て令和 8 年 4 月より B 型利用に繋げることができた。引き続き、支援学校や相談支援事業所・市の関係機関との連携を図り、新規利用者の獲得に努めていく。

定員	期首	新規契約	退 所					期末
			就職	高齢化等	入院	他所	その他	
40 人	46 人	5 人	0 人	2 人	1 人	1 人	3 人	43 人

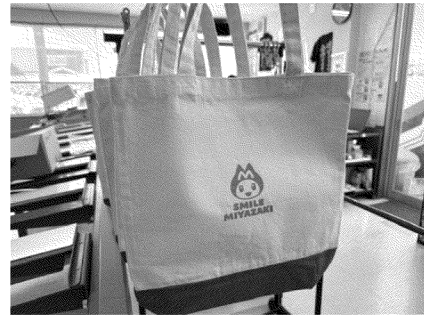
- ③ 一般印刷およびアパレル印刷では、度重なる原材料等の高騰による影響が大きく、苦慮する場面もあった。しかし、利用者が作業訓練を繰り返すことで技術を習得し、既存顧客の満足度を意識した丁寧な作業に取り組んだ結果、追加発注やリピート率の向上に繋げることができた。また、内製化への取り組みによる利益率の向上およびミス削減への取り組みにより安定した品質を確保することで、継続的な顧客獲得に繋げることができた。
- ④ 就労継続支援 B 型事業における平均工賃額は、利用者が施設内での作業を通じて得る賃金の平均値であり、事業所の運営状況や受注内容、利用者の作業能力などによって大きく左右される。また、報酬区分は前年度の平均工賃月額に基づいて設定されるため、平均工賃月額が高いほど報酬単価も高くなる仕組みとなっている。当事業所の前年度平均工賃月額は、概要に記したとおり前年度より 1,447 円減の 30,080 円となり、「30,000 円以上 35,000 円未満」の区分に該当する。引き続き工賃向上に向けた取り組みを強化し、上位区分への移行を目指していく。
- ⑤ 2025 年 12 月 3 日、福岡県にて日本財団「はたらく障害者サポートプロジェクト」の一環である「国立国会図書館蔵書のデジタル化プロジェクト」の現場を視察した。障がい者就労支援ホームあけぼの園において、作業場での仕事の進め方や管理方法などを学び、利用者の就労意欲の喚起と新たな職域への理解を深める機会となった。今後は IT 技術やデジタル化業務への関心を高め、訓練を重ねながら作業種目の拡大を目標に、工賃向上と利用者の新たな能力発見・獲得に繋げていく。



封筒印刷(オンデマンド)作業



写真、イラスト加工作業



アパレル印刷作業 宮崎市から注文(トートバッグ)を受ける

- ⑥ 軽作業については、(株)兼重青果様からの請負である千切り大根の選別・袋詰め作業の他、ニホンバイオフーズ製造(株)からの請負業務にて様々な商品の梱包作業を途切れることなく継続受注作業することができた。



健康サプリ 梱包作業 (ニホンバイオフーズ製造(株)より受託)



千切り大根 袋詰め作業 (株)兼重青果より受託)

2 居宅介護事業・同行援護事業・外出介護事業・シェアハウス（Yumeハウス）

(1) 事業実績

居宅介護事業	令和7年度		令和6年度	令和5年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	10人	9人	9人	9人
介護給付費収入 (利用者負担含む)	60,000,000円	70,608,070円	67,369,050円	59,058,020円

同行援護事業	令和7年度		令和6年度	令和5年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	—	1人	1人	1人
介護給付費収入 (利用者負担含む)	—	91,030円	102,680円	13,660円

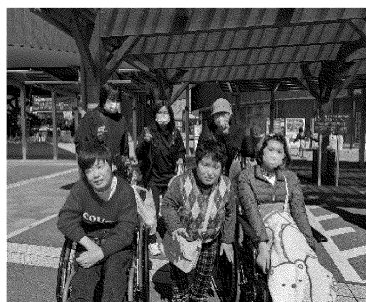
外出介護事業	令和7年度		令和6年度	令和5年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	—	8人	8人	8人
受託事業収入	—	197,440円	153,280円	112,020円

(2) 事業成果と課題

- ① 居宅介護事業は、前年度と比較し約320万円増の70,806,070円となった。
- ② Yumeハウスやじろべえ1号館では、昨年3月中旬に介護保険移行により転居された空室に、翌4月1日に新規利用者が入居し、空床を防ぐことができた。
- ③ Yumeハウス2号館では、玄関から駐車場にかけて耐震性の高い屋外屋根を設置し、温暖化対策および雨天時における利用者の快適な移動環境の整備を行った。
- ④ 感染対策や緊急時の対応、虐待防止の取り組みなど、全職員が積極的に研修に参加し、スキルアップと日頃の備えに努めることができた。
- ⑤ シェアハウス利用者間の交流を目的に、Yumeハウス日帰り旅行を計画・実施した。
- ⑥ 今後の課題として、Yumeハウス3号館の設置に向け、人材確保、利用者の暮らしを中心とした支援の質の向上、求められるシェアハウスづくりが挙げられる。



ヘルパー研修会（不適切対応）



日帰り旅行（道の駅 くしま）



Ⅲ 感染症対策

- 1 インフルエンザワクチン接種については、希望する利用者・職員に対し、11月に嘱託医による接種を実施し、まん延防止に努めた。
- 2 新型コロナウイルス感染症関連では、日頃から感染症対策を徹底して行い、施設内での感染拡大を防ぐことができた。
- 3 安全対策委員会を中心に定期的な研修を実施し、実技研修を取り入れながら課題を見つけ、解決策について職員間で意見交換を行い、感染対策に取り組んだ。



令和7年6月 感染予防・まん延防止 研修



令和8年1月 嘔吐物処理方法訓練

IV 非常災害対策・BCPの取り組み

- 1 総合防災訓練や火災・地震・水害による避難訓練などについては、年間計画に基づいて実施した。また、新たな取り組みとして防災備蓄倉庫を設置し、非常災害時に備えた必要最低限の備蓄品を確保した。
- 2 BCP関連では、BCPへの共通認識・理解度を深めるため、安全マップをもとに危険箇所の洗い出しを再度実施し、確認を行った。



令和7年5月 防犯研修
(宮崎南警察署講座)



令和7年7月 AED 研修
(宮崎消防中部出張所講座)



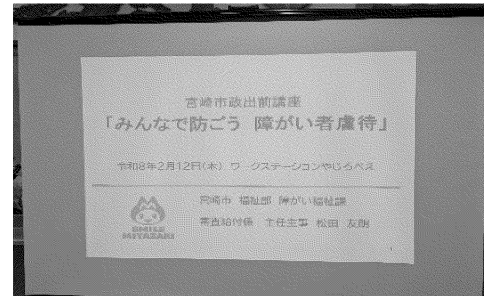
令和8年2月 避難訓練
(地震時の初期動作練習)

V 職員研修関係

- 1 事業所内研修では、宮崎市障がい福祉課より専門の講師を招き、虐待防止および身体拘束関連の研修を実施し、全職員でサービスの質の向上に取り組んだ。
- 2 事業所外研修では、宮崎県人権講座、サービス管理責任者更新研修、虐待防止研修のほか、全国社会就労センター長研修、宮崎県社会就労センター職員研修Ⅰ・Ⅱ、施設長研修に参加することができた。



令和7年5月九州印刷情報産業展（9名参加）



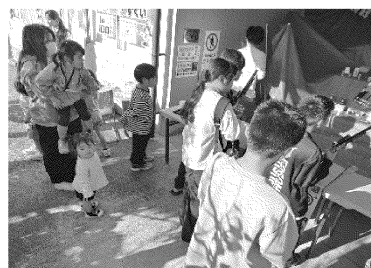
令和8年2月 虐待防止研修（全職員参加）

VI 地域貢献活動及び行事関係

地域貢献活動の一環として、昨年11月に6年ぶりにやじろべえ祭りを開催し、近隣の方々との地域交流を行った。また、地域清掃活動を兼ねて緊急時の避難経路を確認しながらごみ拾いを行い、利用者の防災意識を高めた。さらに、芋煮会・社会見学といったリフレッシュ行事を季節ごとに開催し、モチベーション向上に繋がる取り組みを行った。



やじろべえ祭り（模擬店）



やじろべえ祭り（射的）



やじろべえ祭り（会場）

令和 7 年度 障害者支援施設 翼 事業報告書

I 事業の概要

- 10 月より特定技能制度を活用し、フィリピンより 2 名を職員として雇用した。来日当初は日本語がうまく伝わっていないこともあったが、本人たちの努力もあり、利用者、職員とのコミュニケーションも十分に取れてきている。
- 利用者と地域との関係づくりなどを目的とした地域連携推進会議が義務化されたことに伴い、3 月に開催した。利用者、利用者家族、地域の関係者等にご参加いただき、施設見学や事業報告を行った。
- 令和 6 年度に地域住民の方々にも参加していただき実施した総合防災訓練において、碎石の駐車場では安全な避難誘導が困難であったとの意見も踏まえ、職員駐車場（施設南側）のアスファルト舗装工事を行った。
- 11 月に宮崎市指導監査並びに運営指導を受検した。指摘事項について職員に周知するとともに、同様の指摘がないように改善策を図った。
- 2 月に福岡県で開催された九州障害者支援施設研究大会において、職員 2 名が「他職種連携による総合的支援」について事例発表を行った。

II 事業の状況

1 入 所

(1) 事業実績

		令和 7 年度		令和 6 年度	令和 5 年度
		目標値	実績値	実績値	実績値
利用者定員		32 名	32 名	32 名	32 名
登録利用者数		—	—	—	—
開所 日数	生活介護	261 日	261 日	261 日	260 日
	施設入所支援	365 日	365 日	365 日	366 日
一日平均利用者数		31.3 名	31.2 名	30.3 名	30.4 名
利用者延 べ人数	生活介護	8,256 名	8,140 名	7,936 名	7,957 名
	施設入所支援	11,412 名	11,386 名	11,077 名	11,130 名
介護給付費収入 (利用者負担を含む)		211,920,000 円	216,216,015 円	213,253,110 円	209,471,665 円

(2) 事業成果と課題

- ① 入退所状況では、1 名の利用者が退所された。医療的な支援の頻度が多くなり、看護師不在の夜間帯の対応が難しくなったことにより退所となった。新規入所者は 5 月と 2 月にそれぞれ 1 名が入所された。

また、入所待機者は令和 7 年度に 6 名が新規で申し込まれ、合計 20 名となった。

- ② 利用実績では、1日平均利用者数 31.2 名となり前年度より増加した。要因としては、入院者が前年比△93 名であったことや、退所者の後の新規利用者が比較的スムーズに入所できたことで空床期間が短期間であったことがあげられる。今後も嘱託医との連携を密にし、利用者の方の健康管理に努めていきたい。
- ③ 介護給付費収入は、生活介護、施設入所ともに前年度より利用実績が上回り、300 万円ほどの増収となった。

2 短期入所

(1) 事業実績

	令和 7 年度		令和 6 年度	令和 5 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
利用者定員	3 名	3 名	3 名	3 名
登録利用者数	34 名	22 名	23 名	21 名
開所日数	365 日	365 日	365 日	366 日
一日平均利用者数	1.5 名	1.7 名	1.2 名	0.8 名
利用者延べ人数	540 名	607 名	475 名	289 名
介護給付費収入 (利用者負担を含む)	4,440,000 円	5,935,670 円	4,524,315 円	2,534,524 円

(2) 事業成果と課題

- ① 新規利用者 4 名を含む 22 名の方の利用があった。利用者のうち入所待機者も多く、将来の入所を見据えて安心してもらえる支援方法の習得や家族との信頼関係の構築に努めていきたい。
- ② 利用実績では、1日平均利用者数と利用者延べ人数共に増加した。入所を希望されている方の毎月の定期的な利用などもあり、1日平均 1.7 名に増加した。
- ③ 介護給付費収入は、前年度より 140 万円の増収となった。

3 日中一時支援

(1) 事業実績

	令和 7 年度		令和 6 年度	令和 5 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
利用者定員	2 名	2 名	2 名	2 名
登録利用者数	10 名	10 名	10 名	8 名
開所日数	365 日	365 日	365 日	366 日
一日平均利用者数	0.7 名	0.7 名	0.9 名	0.5 名
利用者延べ人数	252 名	247 名	342 名	197 名
介護給付費収入 (利用者負担を含む)	2,100,000 円	1,380,825 円	2,106,350 円	1,212,716 円

(2) 事業成果と課題

- ① 新規利用者1名を受け入れたが、定期的に利用されていた利用者2名の利用が無くなり、前年度より延べ利用者数が減少した。現在利用されている方のうち2名は高校生がおり、卒業後はまほろば福祉会の通所系サービスを希望されているため、卒業後の進路に繋がられる役割を果たしていきたい。
- ② 介護給付費収入は、延べ利用者数の減少により目標値に届かず、前年度より減収となった。

Ⅲ 感染症対策

新型コロナウイルス感染症については、8月に利用者2名・職員2名、インフルエンザは12月に利用者4名・職員2名が罹患したが、居室対応を徹底し、感染拡大を防止することができた。4月に「ガウンテクニックの正しい知識」について職員研修を実施し、正しい方法について再確認をすることができたことも感染拡大を防止できた一つの要因であった。

Ⅳ 非常災害対策

火災を想定した避難訓練や洪水を想定した避難経路の確認を利用者の方と行った。また、火災通報装置等の機器操作についても改めて職員への周知を図った。

Ⅴ 職員研修関係

月	内 容	月	内 容
4 月	・ 総合防災訓練 ・ 感染症研修、訓練 ・ BCP 研修	10 月	・ 九障協サービス提供職員研修 ・ 虐待防止研修 ・ 県障協職種別研修 ・ 感染症研修、訓練
5 月	・ 洪水避難ルート確認	11 月	・ 県障協職員研修
6 月	・ 安全運転研修 ・ 九障協施設長、リーダー研修 ・ 虐待防止研修	12 月	※インフルエンザ感染により未実施
7 月	・ 救命救急法 ・ 防犯研修	1 月	・ ハラスメント研修
8 月	・ 県障協施設間交流研修 ・ 先進地視察研修 (特定技能実習生関連)	2 月	・ 九障協研究大会
9 月	・ 全国身障協研究大会 ・ 九州身体障害児者研究大会	3 月	・ 地域連携推進会議

※通年：宮崎県社会福祉協議会主催研修

VI 行事関係

月	内 容	月	内 容
4 月	・ フラワーフェスタ ・ 家族会総会	10 月	・ 秋を満喫しよう（梨狩り、温泉） ・ ラーメン実演（屋台骨）
5 月	・ 焼肉会 ・ ラーメン実演（風来軒）	11 月	・ 秋を満喫しよう（動物園）
6 月	・ 科学技術館&アミュプラザ ・ お好み焼き実演（ロビン）	12 月	・ クリスマス会 ・ 鍋の日
7 月	・ 焼肉会	1 月	・ 初詣ドライブ ・ キッチンカーイベント ・ 鍋の日
8 月	・ エイサー団ステージ	2 月	・ 野球キャンプ観戦 ・ おやつバイキング
9 月	・ 納涼祭 ・ キッチンカーイベント ・ 運動会 ・ バイキング	3 月	・ 餃子パーティー ・ お花見会

※その他：リフレッシュ外出、BD（バースデー）外出

VII 決算状況（別紙決算書参照）

令和 7 年度 さくら館 事業報告書

I 事業の概要

- 1 生活介護においては、医療的ケアの必要な方を含め、2 名以上の若年層（新卒）の生活介護利用者の受け入れを行った。
- 2 さくら館が、災害が発生した時の避難所の受け入れ施設として機能するために防火シャッターの設置と業務用エアコンの交換を行った。
- 3 居宅介護においては、シェアハウスひまわりの増築工事を計画していたが、新卒者のニーズに対応するためシェアハウス新築工事へ変更となる。
- 4 シェアハウスの週末支援の人材確保のため、法人以外の他事業所と連携を図った。
- 5 令和 8 年 2 月 27 日に訪問介護ももたろうが宮崎市指導監査課による運営指導を受検した。改善内容として、サービス提供の記録について個別支援計画書に明記されている内容を明記するなどを周知した。

II 事業の状況

1 生活介護事業

(1) 事業実績

	令和 7 年度		令和 6 年度	令和 5 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
利用定員	20 名	20 名	20 名	20 名
登録利用者数	36 名	37 名	36 名	37 名
開所日数	265 日	266 日	261 日	263 日
一日平均利用者数	24 名	24.1 名	24.0 名	22.4 名
利用者延べ人数	6,300 名	6,416 名	6,271 名	5,900 名
介護給付費収入	112,600,000 円	128,474,070 円	125,025,290 円	107,702,210 円

(2) 事業の成果と課題

- ① 生活介護は前年度の数値より 344 万の収入増で目標値を達成することが出来た。利用者の増減はあったものの 2 名の若年層（新卒）の受け入れを行い、前年度の延べ人数を比較すると 145 名増加であった。また、永年生活介護と居宅介護を利用していた 1 名の方が緊急搬送され誤嚥性肺炎の為に 1 月に亡くなった。また、支援学校との連携を図り新規受け入れ体制の強化を図る。
- ② 年間の祝日営業(14 日間)と土曜営業 (9 日間) で延べ 333 名の受け入れができた。
- ③ 言語聴覚士による口腔体操の定着と情報共有を行う。
- ④ 災害が発生した時の避難所の受け入れ施設として機能するために、雨戸シャッターの設置とエアコンの交換を行った。

- ⑤ 清武せいりゅう支援学校 7 名、日南くろしお支援学校 1 名、児湯るびなす支援学校 2 名の見学・実習の積極的な受け入れを実施した。
- ⑥ 大学生 1 名の実習の受け入れを行った。今後も継続して実習の受け入れ体制を図る。
- ⑦ 忘年会で初めて家族会を開催し、成年後見制度の勉強会を行った。
- ⑧ インスタグラムにより、承認されたフォロワー数の増加と共に幅広く情報発信の場を増やすことができた。
- ⑨ 敷地内に鑑賞スペースを確保し、アニマルセラピーに取り組む。
- ⑩ さくら農園の拡充（給食・喫茶のスープ作り用の材料）と、法人企画の米作りに参加し物価高騰への対策を図った。
- ⑪ ご家族のニーズに応じて、県内外（都城、長崎）の旅行を実施した。1 泊 2 日の日程で無事終わることができた。今後、医療的ケアの方にも参加できるようなグループに分けた利用者旅行を計画していく。

2 居宅介護事業

（１）事業の実績

【居宅介護】

	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
登録利用者数	12 名	12 名	13 名
介護給付費収入	112,932,250 円	124,115,020 円	102,643,550 円

【重度訪問介護】

	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
登録利用者数	1 名	1 名	2 名
介護給付費収入	11,012,950 円	11,081,030 円	18,804,370 円

【外出介護】

	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
登録利用者数	11 名	11 名	12 名
介護給付費収入	1,867,540 円	1,801,750 円	2,011,530 円

【同行援護】

	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
登録利用者数	1 名	1 名	1 名
介護給付費収入	562,490 円	677,810 円	524,520 円

【訪問介護】

	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
登録利用者数	2 名	2 名	2 名
介護給付費収入	5,944,770 円	5,056,060 円	2,912,330 円

【居宅介護総合】

	令和 7 年度		令和 6 年度	令和 5 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	15 名	12 名	12 名	14 名
介護給付費収入	126,500,000 円	132,320,000 円	142,731,670 円	126,896,300 円

(2) 事業の成果と課題

- ① 居宅介護を総合的にみて、前年度の数値より 1,000 万の収入減であった。具体的には、利用者の入院が長引いたことと、1 名の方が亡くなられたことが大きな要因となった。
- ② シェアハウスひまわりの増築工事を計画していたが、特別支援学校卒業生のニーズと親亡き後のご家族の想いに対応するためシェアハウス（仮名：ヤングハウス）の新築工事へ変更となった。建築にあたり、人材育成も考慮し新人職員もプロジェクトチームに関わることができた。
- ③ シェアハウス利用者は現在 11 名で、シェアハウスくろーばーに 15 年入居されていた利用者が 1 月に誤嚥性肺炎のため亡くなられた。また、あさがおが 1 室空きの状況である。今後も満床へ向けた受け入れ体制の強化を図る。
- ④ 派遣体制については、跡江地区に 3 つのシェアハウスが集まり、専任ヘルパーのシフト派遣、生活介護のヘルパー兼務派遣、他事業所との派遣連携等が整備された。効率の良いヘルパー派遣ができることで、少ない人員でも体制が強化できた。
- ⑤ 令和 6 年度に導入した入浴リフトについては、同行派遣により介護技術の習得及び運用の定着と介護負担軽減にも努めることができた。
- ⑥ 他居宅介護事業所と連携して夜間の派遣体制の安定化を図ることができた。
- ⑦ シェアハウスの家族会を発足し家族同士の想いを知ることができ、また共有する機会となった。
- ⑧ かかりつけ医、訪問看護ステーションや調剤薬局と連携し在宅での服薬管理や健康管理の徹底を図った。
- ⑨ シェアハウス毎に季節イベントへの参加、ニーズに沿った楽しみのある外出の機会を増やした。

Ⅲ 感染症対策

- 1 感染症については、年間を通して、利用者 3 名、職員・ヘルパーが 6 名の感染が確認された。主に家庭内感染によるものが多かった。
- 2 インフルエンザワクチン接種については、嘱託医より希望する利用者、職員に対し 11 月に接種を実施した。
- 3 感染症研修としては、防災担当者に看護師が加わり、3 月にインフルエンザの予防として手洗い、うがいの実践とマスクの着用の重要性を感じた。

Ⅳ 非常災害対策

BCP（業務継続計画）については、毎月 1 回の防災訓練を実施し、利用者及び職員の日ごろの心構えと訓練の重要性を感じることができた。今後、備蓄庫を整備し災害時の備えや機器の整

理を行っていく。

V 年間報告一覧表

- 1 行事・イベント関係
- 2 防災訓練関係
- 3 職員研修関係

令和7年度 さくら館行事・イベント関係

4月	さくらさくらお花見 BBQ	10月	さくら館運動会
5月	アミュプラザ宮崎 法人事業所間交流イベント	11月	大淀川学習館
6月	宮崎県立美術館	12月	忘年会（The TERRACE）
7月	サマーフェス2025 （夏祭り）	1月	初詣（江田神社、宮崎八幡宮）
8月	陶芸（都城市）	2月	ボタニックガーデン
9月	イオンモール宮崎	3月	西都原古墳公園お花見

令和7年度 防災訓練関係

4月	119 通報・消火器操作訓練 （飛鳥防災システム）	10月	119 通報・消火器操作訓練 （飛鳥防災システム）
5月	防災講話（防火管理者：横山所長）	11月	避難訓練（遊古館へ避難）
6月	人命救助講座（消防士依頼 AED）	12月	防災講座（ビデオや防災食体験）
7月	避難訓練（遊古館へ避難）	1月	消防機器操作訓練（飛鳥防災依頼）
8月	台風対策講習（ビデオやクイズ）	2月	地震講座（ビデオやクイズ） BCP 研修
9月	図上訓練（避難シュミレーション）	3月	避難訓練@遊古館へ避難 感染症対策

令和 7 年度 研修受講状況

4 月	新人研修、安全衛生推進養成講習	10 月	国際福祉機器展（東京）
5 月		11 月	同行援護研修（一般）
6 月	県サビ管研修（基礎研修） 福祉有償運送研修	12 月	同行援護研修（応用） 虐待・BCP 研修
7 月		1 月	
8 月		2 月	
9 月	身障協研究大会（富山県） 九障協研究大会（沖縄県）	3 月	成年後見人制度研修会（生目地区包括）

令和7年度 ひらり・天領の杜 事業報告書

I 事業の概要

- 1 ひらり玄関屋根駐車アプローチ改修工事を行い、利用者の皆さまが雨天時にも安心して車両の乗り降りができるようになり、ご家族の皆さまの来訪時や行事等での利便性を高めることができた。
- 2 地域との連携強化を目的として、綾町立町地区の自治会に加入し、地域の清掃活動、防災訓練に参加し、地域の一員として協力体制の構築に努めた。また、冬まつりを開催し地域住民との交流も行うことができた。
- 3 10月1日にひらり生活介護事業が宮崎県指導監査・援護課による指導監査を受検した。改善事項として、個別支援計画の作成・会議の内容や委員会の開催についての指摘があり、改善報告を行った。また、8月6日には宮崎市地域生活支援事業の外出介護事業、日中一時支援事業の運営指導を受検した。改善事項として、実績記録票の押印や計画の作成日の記載について指摘があり、改善報告を行った。

II 事業の状況

1 生活介護事業

(1) 事業実績

	令和7年度目標	令和7年度実績	令和6年度実績	令和5年度実績
利用者定員	20名	20名	20名	20名
登録利用者数	33名	27名	30名	30名
開所日数	265日	267日	264日	267日
一日平均利用者数	20名	21.2名	21.6名	20.5名
利用者延べ人数	5,830名	5,682名	5,733名	5,462名
介護給付費収入 (利用者負担含)	90,000,000円	89,229,680円	90,118,490円	83,961,820円

(2) 事業成果と課題

- ① 介護給付費収入は約890,000円の減収であった。要因として、長期入院で1ヶ月～2ヶ月以上の欠席が続いた方が6名いたことと、介護保険へ移行や施設入所等により5名が退所となったことが考えられる。
- ② 開所日数は前年度実績より3日増えたが、給付費、延べ人数ともに目標数値には達成することができなかった。引き続き利用継続と新規利用者の獲得に努めていく。
- ③ 月1回の心理士によるカウンセリングは好評であった。利用者の方々の心の安定につながったと思われる。
- ④ 園外活動については、利用者ミーティングでの要望に沿って行った。えびの市や日南市など遠方にも行くことができ、事故なく実施することができた。
- ⑤ 日中活動については、日替わりで活動を提供しているが、参加者の偏りもあり全員で取り組めていないこともあるため、サークル活動化を検討し趣味に繋がるような「やりたいこと」を見つけられるような活動を実施していきたい。

- ⑥ 介護保険への移行となる方が 8 年度は 3 名おられ、生活介護利用継続が難しくなることが予想される。相談支援事業所との連携を図り、利用者獲得に努める。

2 居宅介護等事業

(1) 事業実績

居宅介護

	令和 7 年度目標	令和 7 年度実績	令和 6 年度実績	令和 5 年度実績
登録利用者数	—	14 名	15 名	12 名
介護給付費収入(利用者負担含む)	120,000,000 円	155,024,920 円	125,116,890 円	99,200,560 円

訪問介護

	令和 7 年度目標	令和 7 年度実績	令和 6 年度実績	令和 5 年度実績
登録利用者数	—	6 名	7 名	8 名
介護給付費収入(利用者負担含む)	18,000,000 円	13,803,200 円	17,842,735 円	17,282,835 円

外出介護

	令和 7 年度目標	令和 7 年度実績	令和 6 年度実績	令和 5 年度実績
登録利用者数	—	15 名	15 名	13 名
介護給付費収入(利用者負担含む)	—	3,566,025 円	3,596,900 円	2,876,390 円

(2) 事業成果と課題

- ① 居宅介護については、数値目標を達成することができ、前年度より約 29,900,000 円の増収となった。要因として、5 月からホームが満床となったことや、長期の入院者が 3 名いたものの、支給量変更等もあり増収につながったことが考えられる。また、ともしび入居者で 65 歳未満の方についても障害福祉サービスを提供することができ、増収につながったと考えられる。
- ② 訪問介護については、ともしびは満床ではあったが、他事業所へのデイサービス利用により訪問介護サービスの利用が無い方や他事業所へ訪問入浴を依頼したことなどで、減収となり、目標達成には至らなかった。
- ③ 新規ヘルパーは 2 名の採用があった。夜勤ヘルパーの確保により、職員による夜勤対応が減少し、生活介護、ヘルパー業務共に、人員体制が整い、安定したサービスを提供につながった。

3 福祉ホーム(天領の杜・喜楽家)

(1) 事業成果と課題

- ① 5 月より 2 つのホームともに満床となり、居宅介護サービスを提供することができた。
- ② 長期入院者は 3 名おられ、検査入院が長期化するケースであった。
- ③ 感染症については、病院から退院した翌日にインフルエンザ陽性が分かり、喜楽家にて他 2 名の方が感染された。

- ④ ホームレクリエーションとして BBQ を実施したが、今後も計画的にレクリエーション活動を実施していく。

4 有料老人ホーム（みんなの家ともしび）

（１）事業成果と課題

- ① １月に長期入院されていた方が退所となり１室の空床が続いた。
- ② 行事では、６回の園内、外活動を行い、入居者の誕生日にはリクエストメニューを提供し食を楽しんでもらうことができた。また、日中活動では季節に応じた壁紙作製を行った。作品を施設内に掲示することで季節感のある明るい環境づくりにつながった。
- ③ １月に入居者４名がインフルエンザに感染された。消毒の徹底を行い、感染予防に努めた。
- ④ 入居者との契約で訪問診療や訪問看護にいられているが、情報共有をしっかりと行い、入居者の健康管理に努めていく。

Ⅲ 感染症対策

- １ 感染症対策の研修を実施し、職員・ヘルパーに周知を行った。
- ２ 感染症については、インフルエンザに感染された方が喜楽家、ともしびで確認されたが、日頃からの消毒等で蔓延することはなかった。職員一人ひとりが感染対策を意識し適切な対応に努めることができた。

Ⅳ 非常災害対策

- １ 外部講師による研修を実施し、BCP 計画の見直しを行った。
- ２ 非常食の期限切れの飲料水、食品の入れ替えを行い、必要物品の見直しも行った。
- ３ ７年度は台風接近は無く、ひらりへの避難は行わなかったが、今後も災害時に備え、避難行動計画の訓練・見直しを行っていく。

Ⅴ 職員・ヘルパー研修・防災訓練関係

4 月	消防訓練（避難・通報・初期消火）	10 月	コミュニケーションスキル（聴き方） 消防設備点検（ひらり） 応急手当・救急講座
5 月	消防設備点検（天領・喜楽家）	11 月	認知症の方の対応について プライバシー保護と法令遵守 利用者主体研修 虐待防止と身体拘束の予防 災害訓練（避難・通報・初期消火） 消防立入検査（ひらり） 総合防災訓練（綾町）
6 月	福祉施設における備蓄食研修 感染症と食中毒の対策強化 災害訓練（避難・通報・初期消火） 消防立入検査（ともしび）	12 月	多職種連携研修 自動通報装置点検

7 月	緊急時の介護 認知症の方に対する介護技術 防災講座・起震車体験	1 月	リスクマネジメント研修 感染症研修・訓練 BCP 研修 介護事故トラブルを防ぐポイント
8 月	コミュニケーションスキル（伝え方） 災害時の介護現場の対応 AED 講習会	2 月	介護職にできる医行為 排泄ケア研修 虐待防止・身体拘束研修
9 月	災害対応力研修	3 月	BCP 研修・訓練

VI 行事関係（ひらり）

4 月	焼肉会	10 月	えびの道の駅・コカ・コーラ工場見学
5 月	屋台骨 西澤養蜂場 運動会	11 月	川南 PLAT
6 月	街中散策	12 月	冬まつり
7 月	夾竹園（ランチ外出）	1 月	初詣（一ツ葉稲荷）・イオン 地域清掃活動（自治会）
8 月	宮崎総合博物館	2 月	雛山散策 ソフトバンクキャンプ見学 綾町自治公民館町民大会（自治会）
9 月	山椒茶屋（ランチ外出）	3 月	青島ボタニックガーデン・宮崎空港

行事・制作関係（ともしび）

4 月	藤の花（壁紙）	10 月	ハロウィンイベント トイレットペーパーの芯アート ハロウィン貼絵
5 月	お楽しみ食事会	12 月	カラーコーンでツリー作り
7 月	祭りイメージ（壁紙）	1 月	正月飾り・リースしめ縄づくり
8 月	ソーメン流し・海鮮 BBQ 花火・七夕（壁紙） ひまわり・ぶどう（壁紙）	2 月	ちりめんのひな人形作り たんぽぽ（壁紙）
9 月	敬老会 敬老会ポスターづくり	3 月	お花見（綾町古屋公園）

VII 決算状況（別添決算書参照）

令和 7 年度 相談サポートまほろば事業報告書

I 事業の概要

- 1 障がい児の相談が基幹センターである宮崎市総合発達支援センター「おおぞら」や宮崎市障がい者総合サポートセンターからの依頼により、令和 7 年度は新規障害者契約数 13 名、新規障害児 1 名の合計 14 名の新規利用者獲得ができたが、死去による減が 5 名、他事業所への移管 10 名、県外への転居 1 名、サービスの終了 1 名あり、契約利用者数が 3 名減であった。
- 2 令和 7 年 4 月から相談支援専門員の体制が常勤専任 2 名、常勤兼務 2 名となり、そのうち常勤専任の現任研修終了の相談支援専門員が不在となったため、基本報酬単価(サービス利用支援費Ⅰ)が約 15～20%減からのスタートであった。基本報酬を機能強化型サービス利用支援費(Ⅲ)に変更するため、8 月から現任職員研修を受け、令和 8 年 3 月から機能強化型サービス利用支援費(Ⅲ)に変更できた。
- 3 利用者満足度の向上と、相談支援への満足度を確認することができるよう、全利用者の計画書に「相談支援」の支援項目を計画更新時に順次加え、より良いサービス等利用計画書を作成することができた。

II 事業の状況

1 事業実績

	令和 7 年度 目標値	令和 7 年度 実績値	令和 6 年度 実績値	令和 5 年度 実績値
登録者人数	216 名	202 名	205 名	193 名
計画作成件数	195 件	158 名	180 件	175 件
モニタリング件数	495 件	446 件	430 件	419 件
給付費	11,766,000 円	9,863,830 円	11,618,942 円	10,280,493 円

2 事業成果と課題

- (1) 令和 7 年 6 月に常勤女性相談員が退職。担当分 66 名を他の相談員に引き継いだ。しかし、特に思春期以降の女性利用者の中で、女性の相談員の希望のある方が複数名おり、やむなく他事業所へ引き継いだ。このことにより令和 7 年度当初目標には遠く及ばなかったが、手厚い相談支援を提供するためモニタリング件数を密にすることに注力した。
- (2) 宮崎市避難行動要支援者個別避難計画作成と並行して、障がい者独居世帯など支援の必要な世帯については、サービス等利用計画の中に災害時の対応について記載し、関係機関にも周知を図り協力・連絡体制を構築したい。

Ⅲ 感 染 対 策

相談支援事業は、他の事業所や個人宅を訪問して行う事業であるので、感染対策には万全を期して行っていく必要がある。今後も法人事務局が奨励する対応を適切に遵守し感染対策を行う。

Ⅳ 非常災害対策

相談支援事業所の独自の避難訓練等の実施はなく、地域支援局が実施する避難訓練や人命救助訓練に参加している。

Ⅴ 職 員 研 修

宮崎市障がい者基幹相談支援センターや、自立支援協議会の各部会が開催する各種研修会へ参加している。

Ⅵ 自立生活援助事業について

1名の利用者への支援を行った。今後も利用希望者に地域で安心して自立した生活ができるように支援をしたい。

令和 7 年度地域支援局事業報告書

I 事業の概要

- 1 第 24 回宮崎県障がい者スポーツ大会に 11 名の方がエントリーされた。体調不良等により 3 名の方が棄権され出場ができなかったが、8 名の方が出場し 7 名が表彰された。全国大会（岐阜大会）への出場には至らなかったが、利用者のモチベーションアップに繋がった。
- 2 10 月、11 月には 2 班に分かれて利用者 1 泊旅行（鹿児島）を実施することができた。延べ 22 名の利用者、ご家族 1 名が参加された。桜島、鹿児島水族館の観光を中心に行い、参加利用者さんには大変喜んでもらえた。
- 3 外部講師による創作活動（creative 教室・ほのぼのアート）を開始した。各月 2 回の活動を行い、皆さんでの創作活動、個人での絵画などテーマを与え自由な発想で活動をすすめることができた。
- 4 感染症訓練、防災訓練（BCP 訓練・研修含む）を各 2 回実施し、緊急時対応への理解や職員の防災意識向上に繋がった。CloudBCP 使用についてはシステムエラー等の課題も見られたが、業務継続に向けた課題抽出と職員の意識向上に繋がり今後の体制強化に向けた取り組みをすすめることができた。
- 5 職員の資質向上を目指した研修計画については年間計画通り実施することができた。多数の職員が参加することで、業務に必要な知識や技術を学び支援の質を高めることや自身の支援を振り返る機会となり課題や改善点に気付くことの出来る場面を増やすことができた。
- 6 生活支援員 2 名、看護師 1 名が退職。その後看護師 2 名を新たに採用したことから、利用者への医療的ケアへの対応力向上や重度利用者の受け入れ強化に繋がった。また健康観察や感染症対策等の専門的視点が充実しより安心安全なサービス提供体制をすすめることができた。
- 7 BE・FREE において、ナースコールの更新を行った。従来の固定型から持ち歩き可能な携帯型へと変更したことにより、職員が居室外にいる場合でも速やかに呼び出しに気づき対応できる体制が整備された。これにより利用者からの呼び出しへの迅速な対応が可能となり、安心・安全なサービス提供のさらなる向上に繋がった。

II 事業の状況

1 生活介護、地域密着型通所介護

(1) 事業実績

【生活介護】

	令和 7 年度		令和 6 年度	令和 5 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
利用者定員	20 名	20 名	20 名	20 名
登録利用者数	37 名	35 名	37 名	33 名
開所日数	266 日	266 日	266 日	270 日
一日平均利用者数	21.7 名	20.58 名	21.5 名	18.5 名
利用者延べ人数	6,000 名	5,474 名	5,740 名	4,990 名
介護給付費収入	90,000,000 円	88,143,082 円	90,277,115 円	79,652,028 円

【地域密着型通所介護】

	令和 7 年度		令和 6 年度	令和 5 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
利用者定員	10 名	10 名	10 名	10 名
登録利用者数	10 名	9 名	9 名	5 名
開所日数	251 日	251 日	258 日	257 日
一日平均利用者数	6.5 名	6.7 名	4.6 名	4.6 名
利用者延べ人数	1,800 名	1,684 名	1,182 名	1,200 名
介護給付費収入	5,400,000 円	7,148,340 円	6,751,053 円	8,991,620 円

(2) 事業成果と課題

- ① 生活介護事業は前年度の数値をした回り目標値を達成することはできなかった。新規利用者目標 5 名に対して 4 名の新規利用者との契約、4 名の契約を終了した。上半期については継続して目標値を達成していたが、1 年を通して入院者がいたことや、12 月以降風邪症状の利用者が多数続出し数値が落ち込んだ。次年度も新規利用者の獲得を継続していく。

退所者 4 名について、長期入院となり 3 名は退院の見込みなく契約終了、1 名は入院中に逝去された。長期入院の 3 名のうち 2 名は逝去、1 名は在宅生活が困難となり GH への移行となった。

- ② 9 月には、ホームと通所棟をつなぐスロープに手すりを設置し、利用者の移動時における安全確保と利便性向上に努めた。

- ③ 地域密着型通所介護では、生活介護から介護保険サービスに移行になった方が 1 名、やじろべえから移行された方が 1 名契約した。また 2 名の方との契約終了となった。

退所者 2 名について、1 名は点数（支給量）が不足したことで利用が困難になり、1 名は長期入院により利用再開が困難となった。

2 居宅介護、訪問介護、BE・FREE、Be Fine

(1) 事業実績

【居宅介護】

	令和 7 年度		令和 6 年度	令和 5 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	23 名	22 名	18 名	20 名
介護給付費収入	138,000,000 円	140,106,784 円	134,385,421 円	114,820,110 円

【外出介護】

	令和 7 年度		令和 6 年度	令和 5 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	15 名	16 名	15 名	15 名
介護給付費収入	2,000,000 円	1,926,140 円	2,088,470 円	2,247,130 円

【訪問介護】

	令和 7 年度		令和 6 年度	令和 5 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	9 名	9 名	9 名	10 名
介護給付費収入	19,200,000 円	16,840,650 円	17,812,130 円	18,082,134 円

(2) 事業成果と課題

- ① 居宅介護事業では目標値 159,200,000 円に対し 158,873,574 円と約 326,426 円のマイナスで目標値をクリアすることが出来なかった。要因は利用者 2 名が契約終了したことによること、その後の利用者の獲得調整に時間を要したためである。
- ② B E ・ F R E E 既存利用者 1 名が胃ろう対応となったことに伴い、登録ヘルパーを含む職員 13 名が胃ろうに関する資格（第 3 号特定喀痰吸引）を取得し、支援体制の整備を行った。医療的ケアが必要な状況となった後も、医療機関等への施設移行を行うことなく、住み慣れた場所で安心して生活を継続できるよう支援に努めた。
- ③ B E ・ F R E E の利用者が 12 月に 1 名、R8.1 月に 1 名の利用者が逝去され、2 部屋の空室が生じましたが、2 部屋のうち 1 部屋に 1 月末に女性利用者が入居された。
- ④ 登録ヘルパーの高齢化に伴い、今後の人材確保が課題である。利用者の方も介護保険サービスへの移行になる方が控えて居るため若年層利用者の入居者獲得を目指していく。
- ⑤ 9 月には、B E ・ F R E E 前の舗装工事を実施した。路面環境が改善されたことで、利用者や職員の移動がしやすくなり、安全性及び快適性の向上につながった。また有事の際の避難経路確保にも繋がり避難環境の整備を図ることができた。
- ⑥ 2 月に、訪問介護事業における運営指導を受検した。指導事項として、
 - ・ 同一敷地内建物等減算に係る計算書の作成・保管
 - ・ 訪問介護計画書への担当訪問介護員氏名の記載
 - ・ 居宅サービス計画受領日の記録と計画内容への反映
 - ・ モニタリング様式における長期・短期目標の評価記録
 4 点について指導を受けた。それぞれ計算書の整備、計画書の改訂、様式の変更を行い、全職員への周知・共有を図った。

Ⅲ 感染症対策

新型コロナウイルス感染者は年間で利用者・職員合わせて 2 名であったが 12 月～1 月にかけてインフルエンザ感染者が利用者・職員合わせて 7 名となった。これまでの加湿器が小さかったため、新たに 2 台の加湿器を導入し感染予防に努めた。今後も継続して、職員への感染予防、拡大予防を意識して取り組むことへの周知、施設内の消毒、個々の手洗いや手指消毒の徹底を継続していく。

Ⅳ 非常災害対策

防災計画や BCP の見直しを定期的に変更できた。BCP のトレーニングについてはシステム

エラーなど個人携帯への通知が来ない職員も多数いたことから返信できていないことが問題として挙げられた。防災訓練（避難訓練・消火訓練）や防災研修については、計画通り実施することができた。

V 職員研修関係

4 月	新人職員研修、虐待防止研修 総合防災訓練・研修	10 月	上半期復命研修 虐待防止研修
5 月	接遇研修	11 月	感染症研修・訓練
6 月	救命救急講習会、安全運転講習	12 月	
7 月	防犯研修	1 月	メンタルヘルスケア研修 ハラスメント研修
8 月	高次脳機能障害研修	2 月	
9 月	総合防災訓練	3 月	

※通年：宮崎県社会福祉協議会主催研修 リハビリ研修（計 4 回）

VI 行事関係

4 月	花見（西都原古墳公園）	10 月	イオンモール宮崎 利用者旅行 1 班目
5 月	焼肉会 第 24 回障がい者スポーツ大会 アニマルセラピー 事業所間交流イベント	11 月	利用者旅行 2 班目 生目文化祭出品
6 月		12 月	キッチンカー（おやつ家 RIRI） クリスマス会 イルミネーションドライブ
7 月	アミュプラザ宮崎（買い物） 焼肉会	1 月	初詣ドライブ
8 月	瓜倉エイサー団披露 プチ納涼祭、夕涼み会	2 月	
9 月	キッチンカーイベント（米粉チ ュロス） バイキング	3 月	イオンモール宮崎